

清流

題 字 : 芳野 充

令和3年1月30日

第49号

発行所 加来不動産(株)

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに

静かに

清流のように

すべては必要必然

今月ご紹介させていただく「二十の徳目」は、六番目の「へいせい平静」です。「平静」とは、落ち着いて、心静かにかまえることです。元来、目立ちたがり屋のお調子者、また意にそぐわないことがあるとカァーッと頭に血が上りやすいわたしにとって、あこがれの徳目の一つです。

素心学塾塾長の池田繁美先生の若かりしころも、日常生活のささいなことに心を乱し、平静とはほど遠い人間だったと回想されています。そんな池田繁美先生が、平静さを身につけるきっかけとなったのが「『諸行無常』と『因縁生起』という言葉です」と紹介してくださっています。

「諸行無常」

世の中のすべての事やモノは、一つのところにとどまることなく、変化しながら流れていくものである。だから、有頂天になることも、嘆き悲しむこともあってはならない。

「因縁生起」

世の中のすべての現象は、原因があつて起こるもので、意味がなく発生するものは何ひとつない。だから、すべてのできごとを謙虚に受け入れていくこと。

当時のわたしは、「なるほど」と思いながらも実際には、「相手がいる」「世の中がわるい」と決めつけていました。しかし、いつも感情の波はおおきく上下し、心が休まることはありませんでした。そんなある日、一冊の本のなかに「雪が降っても自分の責任」とあったのです。そのとき「諸行無常」「因縁生起」の二つの言葉とリンクしました。経営に関する著書だったのですが、内容を要約してみました。

雪が降るとお客が減る。ずっと雪をいいわけにしていたが、業績は一向に上向かずどんどん追い込まれた。そこで初めて「雪が降っても自分の責任」といいわけせず覚悟した。すると、不思議なことに雪がやみ、業績も上向いてきた。人生で起こることは100%自分の責任。自分の人生を受入れること。そう書かれていたのです。

当時のわたしは、身のまわりに起こる不都合なことを他人やまわりのせいにし、自分の人生(環境)を受け入れていませんでした。それはわたしの考え方や思い方にクセがあったから受け入れられず、結果として不都合な事が起きているにすぎないのだ、と思えました。

いまでも社内や家庭で問題は起きますし、新型コロナウイルスや自然災害など、さまざまな事が発生しますが焦らずうろたえず、すべては必要必然。意味なく発生するものはない、と覚悟を決める。平静さは、そこから培われるものだ、とすこしは理解できるようになった気がします。

加来 寛

